

センターだより

第47号

平成29年12月19日発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター
〒030-0123 青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

義務教育課より

義務教育課長 横山 仁

➤ 新学習指導要領のポイントについて

今年3月に告示された小学校と中学校の新学習指導要領についての地区説明会が、この夏から始まりました。そこで学習指導要領の改訂のポイントを確認したいと思います。まず、今回の改訂の基本的な考え方ですが、教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの学校教育の実践や蓄積を活かし、児童生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指し、児童生徒に求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携するために「社会に開かれた教育課程」を重視しています。教育内容等については、現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成することや、先行する教科化された道徳教育の充実や体験活動及び、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体の育成をめざしています。

➤ 知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」

「何ができるようになるか」を明確にし、知・徳・体にわたる「生きる力」を児童生徒に育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や授業改善が図られるように全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理しています。

➤ 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立

教科等の目標や内容を見渡し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実させる必要があります。また、「主体的・対話的で深い学び」の充実には単元など数コマ程度の授業のまとまりの中で、習得・活用・探究のバランスを工夫することが求められます。そのため、学校全体として、教育内容や時間の適切な配分、必要な人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善などを通して、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントが必要不可欠です。

教育内容の主な改善事項としては、実験レポートの作成、立場や根拠を明確にして議論することなどの学習の基盤としての各教科等における言語活動の充実。理数教育の充実。伝統や文化に関する教育の充実。道徳教育については、道徳的価値を自分事として理解し、多面的・多角的に深く考えたり、議論したりする道徳教育の充実。生命の有限性や自然の大切さ、挑戦や他者との協働の重要性を実感するための体験活動の充実。幼小、小中、中高といった学校段階間の円滑な接続や教科等横断的な学習を重視し、初等中等教育の一貫した学びの充実。主権者教育、消費者教育、防災・安全教育などの充実。ICTを活用した学習活動の充実やプログラミング的思考の育成や情報活用能力の育成。

また、外国語教育の充実として、小学校において、中学年で「外国語活動」を、高学年で「外国語科」を導入することや、小・中・高等学校一貫した学びを重視し、外国語能力の向上を図る目標を設定するとともに、国語教育との連携を図り日本語の特徴や言語の豊かさに気付く指導も充実させることになっています。特別支援学級や通級による指導における個別の指導計画等の全員作成、各教科等における学習上の困難に応じた指導の工夫をするなど障害に応じた指導や不登校児童生徒への対応について学級経営や生徒指導、キャリア教育を充実させ、子供たちの発達の支援を求めています。部活動については、教育課程外の学校教育活動として教育課程との関連について留意することや、社会教育関係団体等との連携等による持続可能な運営体制の構築を求めています。

今回の改訂は、小学校の外国語関係で授業時数が増加し、教育課程編成に一層の工夫が求められ、教科によっては内容の配列等に変更が生じることがありますが、基本的に現在行っている教育活動を大きく変えることはなく、これまで各校、各教員が培ってきたことをさらに高めていくことで、対応は可能であると考えられます。各校においては、完全実施や先行実施を見据え、校内研修や当センター等の研修を通して準備をしていただければと思います。

高校教育課は、研修・研究、学校サポート関連事業を担当しています。学校サポート関連事業には、学校等支援講師派遣事業と教科指導等サポート事業の2つがあります。今年度の学校等支援講師派遣事業では、「アセスの理解と活用」「主体的・対話的で深い学びの授業づくり」「道徳教育」「特別な配慮が必要な児童生徒の理解と支援」「授業力向上」といったテーマの希望が多くなっています。テーマによっては、まだ申込み可能なものもありますので、お気軽にお問合せください。新学習指導要領を見据え、講師派遣事業を活用した校内研修の活性化とともに、当センターをはじめとした校外研修の受講と校内研修との有機的な関連を図ってみたいかがでしょうか。

1 学校等支援講師派遣事業について

学校が抱えている教育課題の解決に向けて、指導主事が講師として校内研修に出向き、校内研修の活性化を図り、教育活動を支援します。

派遣予定数 183件
受講予定者数 5741人 (11月30日現在)

2 教科指導等サポート事業について

先生方から寄せられる教科指導等の質問に対して、今求められている最新の情報を提供し、先生方をサポートします。

申込数 37件 (11月30日現在)
(内訳：高校34件 特別支援学校2件 その他1件)

講師派遣事業 テーマ(抜粋)	学校関係				教育機関	研究会	派遣数
	小学校	中学校	高校	特支			
児童・生徒理解のための調査法の活用(「アセス」の理解と活用)	13	5	1	0	1	4	24
主体的・対話的で深い学びの授業づくり	5	7	4	1	0	5	22
これからの学びにつながる授業力向上	3	5	2	3	2	2	17
道徳教育	14	3	0	0	0	0	17
特別な配慮が必要な児童生徒の理解と支援	6	1	6	0	3	1	17
学校のユニバーサルデザイン	4	4	1	0	1	0	10
不登校への対応	2	2	0	0	0	3	7
いじめへの対応	0	0	2	2	0	2	6
人間関係づくり(構成的グループ・エンカウンターなど)	3	0	0	1	0	2	6

センターセミナー開催のようす

不登校対応支援セミナー

「不登校児童生徒の学校復帰を目指して」

7月25日(火)、FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男 氏を講師にお招きしご講義いただき、94名の先生方・相談機関関係者等がご参加くださいました。

【参加された方の感想】

- ・不登校の児童生徒に対しての具体的な声かけや関わり方について、話を聞くことができとても良かった。
- ・日ごろの支援・指導について見直す機会となり、今後に生かすことができ良かった。また、参加したい。



特別支援教育セミナー

「『読み書き』につまずきのある子へのサポート」

9月30日(土)、金沢星稜大学 教授 河野 俊寛 氏を講師にお招きしご講義いただき、112名の先生や保護者の皆様にご参加くださいました。豊富な具体例を挙げながら、すぐにも活用できそうな指導例をたくさんご紹介いただきました。

【参加された方の感想】

- ・読み書きの具体的支援に加え、教材やアプリの紹介が参考になった。
- ・通常学級でも、さまざまな対応方法があることが分かった。参加できてよかった。



授業力向上セミナー

「深い学びを創出する授業デザイン」

10月21日(土)、(有)教育報道出版社 代表 梶浦 真 氏を講師にお招きしご講義いただき、24名の先生方がご参加くださいました。

【参加された方の感想】

- ・目的をもった「問い」と、学びを「振り返る」ことの重要性を再確認することができた。
- ・カリキュラム・マネジメントは、全ての職層で実践していくべきものだとは分かり、自らの授業を見直してみたいと思った。



あおもり教育フェスタ2017の様子

11月24日(金)25日(土)に当センターにおきまして、学力向上フォーラム及びあおもり教育フェスタ2017が開催され、2日間で350人以上の方がセンターを訪れました。新学習指導要領や各種研究等に関わる多くの情報交換がなされ、活気あふれる行事となりました。ご来場ありがとうございました。



➤ 研究員研究発表

11月24日(金)、当センター研究員の研究発表が行われ、これまでの1年半の研究の経過や成果についての説明がされました。

廣谷 陽輔	中学生の自尊感情を育むための指導の在り方 -「居場所づくりプログラム」の作成・実践を通して-
松谷 雄一	小学校第5学年「小数×小数」「小数÷小数」において、問題場面の数量の関係を捉え、図や式に表すための指導法の研究 -言葉や数・式・図を関連付けて考える四つの活動を通して-
小西 永久	簡易実物投影機を活用した指導方法に関する研究 -数学的な見方や考え方の育成を目指して-
市岡 紀恵	小学校中学年における集団づくりを支援するプログラムの構築 -感情や意思の伝達に焦点を当てた集団活動を通して-
山中 貴志	中学校数学科第1学年「資料の活用」領域において資料の傾向をとらえ説明する力を育成する指導法の研究 -P P D A Cサイクルを通して-
白川 洋介	中学校において気になる行動が見られる生徒の生徒指導上の課題解決能力育成のための指導プログラムの作成とその効果
戸耒 浩之	小・中学校間のなめらかな接続を図るためのレジリエンスを生かした指導の在り方
須藤 崇	中学校社会科歴史的分野において、社会認識を深める指導法の研究 -江戸幕府と津軽藩の政治を同じ視点で学習し、考察する活動を通して-



参加者の声：「計画に基づいて、きちんと行われた研究の成果が表れていると感じました。学校を嫌がっていた子供が研究員の先生の授業を受けて、『救われた』と感想で述べていたことがとても印象的でした。」

➤ プロジェクト研究発表

プロジェクト研究は、当センター所員が8つのグループに分かれてそれぞれ進められた研究です。校内研修活性化支援やICT活用とプログラミング教育、学校マネジメント、資質・能力を育むこれからの授業等のテーマに分かれ、現場で活かせる手立てやアイデアを体験しながら学び合う場となりました。

参加者の声：「おもしろい内容でした！加えて最新の学習の提供の方法、授業展開の工夫など学ぶことができました。ありがとうございました！」「どの発表もとってもよかったです。ぜひ、職場で広げていきたいです。」



➤ 講演会

講演会では、京都大学大学院教育学研究科特任教授の北原琢也氏を講師にお迎えし、「『主体的・対話的で深い学び』を見取る評価の在り方について」と題してご講演を頂きました。新学習指導要領のキーワードにある「資質・能力」の育成を目指すとき、各授業づくりにおいては、「本質的な問い」「永続的な理解」「パフォーマンス課題」「ルーブリック」の4つが必要になること、また、どれも常に教師が考え、改善し続けるものだということを教えていただきました。

参加者の声：「評価についての日頃の疑問の解決になればと思い参加しました。パフォーマンス評価の具体的な方法を知ることができました。授業改善をしながら早急に取り組みたいと思います。」

➤ 各種展示・体験コーナー

研究員研究・プロジェクト研究に関わる展示の他、研究員が執筆を担当した東奥日報junijuni、国立特別支援教育総合研究所特別支援教育教材・支援機器等地域展示会、県立図書館新学習指導要領に関わる図書展、青森地方気象台による防災教育教材展が行われました。また、体験コーナーとして家庭科・音楽・美術に関わるものづくり、ライトレースプログラムとカメラアプリの体験、プラネタリウム、体を動かす運動コーナーが設けられました。



参加者の声：「いろいろな体験があり、とても楽しみながら教育についてふれることができました。」